

上田市立産婦人科病院のあり方について（方針案）について

1 背景

少子高齢化の進展に伴う人口構造の変化や人口減少の加速化などにより、地域の医療を取り巻く環境も大きく変化しています。

こうした中、周産期医療を取り巻く環境は、医師の高齢化や医師不足など厳しい状況もあり、当地域においては現在、周産期医療を提供する4施設により、地域のお産を地域内で取り扱える体制が確保されておりますが、中長期的な視点において、地域の周産期医療提供体制を維持するための連携や、新たな仕組みづくりをしていくことが必要となっております。

上田市では、市立産婦人科病院事業について、少子化等により業務量（分娩数）が減少し経営状態の悪化が継続していることや、将来を見通した医師確保が困難な状況の中で、市立産婦人科病院のあり方検証について、市議会から意見が付されたことを受け、第三者機関である「市立産婦人科病院運営審議会」に対し、地域周産期医療体制を踏まえた、市立産婦人科病院のあり方について諮問しました。

「市立産婦人科病院運営審議会」からは、地域の周産期医療等に直接携わる有識者による「地域周産期医療あり方研究会」からの意見を反映し、市立産婦人科病院の経営形態を見直すだけでなく、他の分娩取扱い施設との共存など、地域の周産期医療体制を踏まえた見直しをすることが重要としたうえで、市立産婦人科病院の経営形態の見直しについては、地域の基幹病院である「信州上田医療センター」との集約化が望ましいという内容の答申を令和3年2月にいただきました。

2 基本方針（目的）

上田市立産婦人科病院のあり方について（方針案）は、前述の答申内容をしっかりと受け止めた中で、将来にわたる安全・安心な周産期医療体制の基盤づくりを進めるための方針としています。

特に「信州上田医療センター」との医療機能の再編、集約化について、どのような形で機能分化が考えられるかを研究し、実現に向けた取組を進めることとしています。

上田市第二次総合計画の後期まちづくり計画に掲げる「子どもが健やかに育ち、子育ての喜び・楽しさを感じられるまちづくり」の実現に向け、市立産婦人科病院だけの問題だけでなく、第二次総合計画（後期まちづくり計画）に沿った地域全体の施策として、妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくりを目指すことを基本方針としています。